

12/15



## 第48回松江市スポーツ少年団 親子運動会

松江市スポーツ少年団の団員と保護者、指導者が一堂に集い、障害物リレーやみんなでジャンプなどさまざまな競技を行い、普段は別々に活動を行っている他種目の団員などと親睦を深めました。

12/22



## 松江市役所新庁舎 工事現場市民見学会

現在は工事のため、普段は立ち入ることができない1期棟の地下1階部分や、2期棟工事範囲の一部の見学会を行いました。親子でのご参加もあり、多くの人に建物の特徴の1つである免震装置や、建物の構造部材、大型の工事車両などをご覧いただきました。

松江市ホームページ



防災メールに登録しましょう。  
QRコードを読み取って、  
空メールを送ってください。



商標について：QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

松江まちかど

ダイアリー

## 市報 松江 目次

- 02 ICT活用による主体的で個別最適な学びの実現
- 04 松江まちかどダイアリー
- 05 松江市長 上定昭仁の「上を向いていこう」/まいぶんTIME
- 06 安居楽業/シリーズ松江の文化力×未来
- 07 松江の皆さんこんにちは。/マイレポート
- 08 松江職人商店街 LINE スタンプラリー
- 09 松江市手話言語条例を制定しました
- 10 暖房器具が原因となる「火災」に注意しましょう
- 11 消防団員募集中！！
- 12 所得の申告をお忘れなく！
- 14 4月20日(日)は松江市長・市議会議員選挙投票日です/6年度 明るい選挙啓発ポスター作品入選者
- 15 野菜・運動はたりていますか？～2月は生活習慣病予防月間です～/大口町交流事業「ウインタースクール」
- 16 子育て・健康・福祉
- 18 障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり条例 市長表彰/令和6年度上期松江市公営企業の経営状況
- 19 情報ひろば
- 24 でかけてほしい～イベント情報～
- 26 原子力広報

松江市長 上定 昭仁の

# 上を向いていこう

Vol.43



「ICTを活用した  
ハイブリッドな教育を  
進めています！」

松江市では、国の「GIGAスクール構想」に基づき、ICT（情報通信技術）を活用した学校教育に力を入れています。令和3年10月までに市内すべての市立小学校・中学校・義務教育学校に、児童・生徒1人1台ずつのタブレット端末を配備するとともに、各教室や理科室に電子黒板を設置しました。昨年9月には、私自身、義務教育学校玉湯学園を訪問して、小学1年生が図工の授業で描画ツールを用いて作品の紹介カードを作る姿や、玉湯川の自然環境研究に当たって複数人で資料を共同編集する小学4年生の様子、中学2年生が中部地方についてネット情報を共有しながら議論する模様など、ICTを有効に活用した授業を視察しました。なお、玉湯学園は、令和5年度に文部科学省が全国で200校を指定する「リーディングDXスクール」に選定され、ICT活用教育を先端的に推進しています。

ICTを活用した学習機会の提供により、効率的・効果的な「一斉学習」がしやすくなるだけでなく、児童・生徒の理解度に応じた「個別学習」や、グループなど複数人で取り組む「協働学習」を容易に行えることが、学校での学びの充実につながり大きなメリットとなります。



〈タブレットを操作する児童〉



〈電子黒板を活用した授業〉

（※）GIGAスクール構想  
令和元年から開始された、全国の児童・生徒一人一人に情報端末（タブレットなど）と高速通信ネットワークを整備する取組み。詳しくは、本誌2、3ページをご覧ください。

令和4年6月からは、学校の授業で使用するタブレット端末を家庭に持ち帰ることとし、デジタル教科書や電子ドリルを家庭学習に活かすことができるようになりました。さらに、AI（人工知能）を活用して、一度間違えた問題や理解できていないと予想される問題を解析して出題する機能も搭載するなど、日々利便性が高まっています。また併せて、登校するのが難しいこどもたちを対象にした、「オンライン授業プログラム」「ポナンねっと」を令和6年5月から本格的にスタートし、顔を出さなくても遠隔で授業が受けられる体制を整えました。松江市では、こどもたちにとってベストな教育環境の構築・維持に努め、自然や歴史など本市ならではのユニークな地域資源と合わせて最大限活用することで、「夢を実現し未来を切り拓く」有望な人材を育ててまいりますので、市民のみならずのご理解とご協力をよろしくお願いたします！

## まいぶんTIME 市内の古墳について紹介します♪

### やわたかしまやま vol.22 八幡鹿島山古墳(八幡町)

八幡鹿島山古墳は竹矢公民館の西方で発見された古墳です。昨年の6月から8月にかけて行った発掘調査によって、5世紀前半につくられた一辺40mほどの大型方墳であることがわかりました。

また、県内では初めて「船が線刻された円筒埴輪」が見つかりました。古代において船は死者の魂を運ぶ神聖なものとして認識されていたため描かれたと考えられます。



「船が線刻された円筒埴輪」



復元図

全国でも20数例しか報告されていないんだって



田和山通跡キャラクター TAWAYAMAN

【問い合わせ】埋蔵文化財調査課 ☎55-5284



地域おこし協力隊の

## 安 居 楽 業

のどかに暮らし、仕事を楽しむ



〈松江市地域おこし協力隊〉

vol.4



### 豊かな松江の暮らし

8期生

かわべ 河邊 匡太

〈神奈川県鎌倉市出身〉

家族3人で松江に移住して、1年9カ月が経ちました。想像していた以上に松江での日常生活は豊かで、家族としても個人としても楽しく過ごしています。感性豊かなこともが育つ環境を求めて、境港出身の妻の両親のルーツである松江に移住しました。移住したときは保育園児だった息子は小学生となり、東京では複合商業施設が主な遊び場だったのも昔の話で、今や一番好きな遊びは「生き物採り」となっています。妻は都会での息詰まる生活から地元に戻り、親や友人たちにも会いたいときに会える環境で心が緩み、表情が優しくなりました（こんなことを書くとき怒られそうですが）。私は松江市民ランナーとして、平日は松江城と宍道湖沿いを走り、土日は大橋川・中海、山と田んぼの景色を見ながら走って、豊かなランニングライフを満喫しています。

松江の魅力は、歴史や神話、文化や芸術、島根半島の白い砂浜や青い海など、枚挙にいとまがありません。食生活も豊かで、季節ごとの魚や野菜が身近にあるだけでなく、醤油や日本酒などの日本での生活に欠かせない伝統的な食材があり、それらが感覚的にも身近に感じられます。松江は、四季折々の原風景が広がる場所だとも感じています。最近も、公民館で「ぼてぼて茶」を体験したり、宍道湖でハシビロガモを発見したり、日々新たな松江の魅力を発見していて、次は何を発見できるのかとワクワクしています。私は地域おこし協力隊として、「まちづくり」というテーマで活動しています。松江の魅力は、日々の暮らしから生み出されているものだと思います。これら松江の素敵な日常生活を残し続けていく、そのための「まちづくり」のお手伝いをいろいろな地域でさせてもらっています。



〈来待でのスタディーツアーの様子〉 〈移住フェアでのブース出展の様子〉

「まちづくり」といってもそれぞれのもちや地域ごとに、人口も面積も地形も暮らしても歴史も登場人物も違うので、進め方や向き合い方はそれに合わせて変わります。そのまちに合ったものを一緒に見つけ、一緒に進めていく、そんな風にサポートできるよう日々取り組んでいるところです。私は高校・大学・社会人にかけて留学や駐在といった経験をjする中で、海外か

## シリーズ「松江の文化力×未来」

松江の文化力の次世代を担う人を紹介します！

Vol.19



### あべ まりな 安部 満里奈

松江市八束町出身・市内在住。小学生の時に島芝翫節と出会う。現在は島芝翫節保存会に所属し、精力的に活動や小学生への指導を行っている。

「島芝翫節」は江戸時代に、江戸で名のあつた歌舞伎俳優の芸風を讃えて歌われた民謡で、現在では全国で唯一八束町に残る伝統芸能です。私が島芝翫節を始めるきっかけになったのは、小学校のクラブ活動です。八束小学校（現・八束学園）では4年生からクラブ活動が始まり、その中の1つに島芝翫節がありました。学校の文化祭できれいな衣装をまとい、踊る先輩たちに憧れていたこともあり、迷わず島芝翫節を選びました。その後、進学や結婚、子育てなどで島芝翫節との距離が生まれる時期もありましたが、好きな気持ちはずっと変わらず持ち続けており、現在まで活動を続けることができています。



〈踊りを披露する安部さん（前列中央）〉

が綺麗に揃うようになると、成長と喜びを感じます。現在、島芝翫節は保存会で継承していますが、会員数が少なく、後継者がなかなか見つからないため、傳承が途絶える危機に陥っています。今でも小学校のクラブ活動で島芝翫節を教えています。今でも小学校に進学して以降は、繋がりがなくなってしまう、なかなか後継者の育成につながっていないのが現実です。島芝翫節を残していくために、今後も小学生への指導を継続して取り組んでいきたいです。発表の機会を増やすことで、島芝翫節と関わるきっかけをつくることができればと思います。

## 松江の皆さん こんにちは。



この度は、松江観光大使を委嘱いただきました。古原徹と申します。世間では、「スーパードライ生ジョッキ缶」の生みの親として知られています。生ジョッキ缶の大ヒットは嬉しかったのですが、売れば売れるほどゴミが増えるビジネスモデルに、もやもやを感じていました。子どもができたことをきっかけに、「会社の利益のための仕事」から「将来世代のための仕事」に軸足を移したいと考え、SDGs関連事業の開発に自ら着手。機に恵まれて、サステナビリティに特化した新会社「アサヒユウアス」を社内起業することができました。アサヒユウアスでは、地域共創と資源循環を事業軸としており、自治体や企業と連携したサステナブルな製品開発を行っています。全国の自治体と共創する中で、「地元でも何かしたい」という思いが強く、松江市がSDGs未来都市に選定されたタイミングで、松江市にアプローチ。宍道湖のシジミ殻を再利用した「森のタンブラー 宍道湖シジミ」を共同開発

し、販売を開始できました。この商品のほか、母校である松江北高校前校長の泉先生とのご縁をきっかけに、松江北高1、2年生に向けて講演とワークショップをする機会をいただきました。実体験を元に、「会社にとらわれない、楽しい仕事のつくりかた」を伝えるとともに、生徒のアイデアを楽しく引き出すワークショップを開催。大変、盛り上がりました。前半の生ジョッキ缶開発秘話は、生徒よりも大人に刺さっていたかもしれない(笑)。松江観光大使として、これまでの人生でつちかした企業、自治体、アカデミアとのコネ・チエを最大限活用し、「松江×○○」のコーポで新価値を生み出し、松江の発展に貢献していきたい。何か一緒にやってみただけですと嬉しいです(Face bookやXなどからお気軽にコンタクトください)。



森のタンブラー 宍道湖シジミ

「東京松江会」への入会者を募集しています。関東地方在住の人をご紹介いただける人はご連絡ください。  
〒140-0001 品川区北品川1-1-16 第2小池ビル6階 樹さんびる内 東京松江会事務局  
☎090-1188-0776 (幹事長 境 真樹) ✉tokyomatsuekai@gmail.com 東京松江会ホームページ



## まちをよくする マイルレポート

### ブランディングって面白い

松江商工会議所青年部副会長

武田 冬也

松江YEG(松江商工会議所青年部)は、松江で仕事をする45歳以下の青年経済人の集まりです。私たちが松江YEGは、複数の委員会構成されており、6年度は「総務」「地域活性化」「ビジョナリー」「YEGネットワーク」そして私が副会長として担当する「ブランディング」の5つの委員会活動しています。

ブランディングをしたい対象が、自分や組織、商品など形はさまざまありますが、大切なことは、知ってもらいたい気持ち。とそこから知ってもらおう相手を知ること。何やらややこしい言い方にはなりますが、従来の情報を送り続けるだけではなく、私たち自身が、まずは知ってもらいたい対象を知る事からブランディング活動がスタートしました。

よっては言葉も選び、伝えたい事を伝えます。企業が人とコミュニケーションしたい場合は、視聴者がどう見てくれるかを考え、チラシや新聞、テレビCM、ネットという媒体を選んで伝えたい事を伝える。相手のことを考えてメッセージを伝え、自分を知ってもらうという事はブランディングであり、コミュニケーションとして置き換えて考えると、普段目にするさまざまな広告から今までと違ったメッセージが見えるのかもしれない。

このブランディング委員会では、広報を担っている一面もありますが、その名の通り会内外にブランディングを行う委員会になります。みなさんは「ブランディング」と聞くとあまりよく知らなかったり、少し敷居が高いと思われるかもしれません。でも、例えば興味をもってもらいたい方や会話をする時に、表情や話し方、身だしなみなどの普段当たり前にやっている「自分をよく知ってもらおう」ための所作も一つのブランディングと考えると意外とできちゃう気がしませんか？

そして昨年10月、総合広告代理店である電通九州様から講師をお招きし、ブランディングについての勉強会を開催した際、「ブランディングとは、人や企業の気持ちを持った先にあるモノ」と講師の方が話をされていました。私自身とても良い言葉だなと思うと同時に「これコミュニケーションという言葉でも置き換えられるんじゃないか？」と思いました。

